

平成20年10月22日

杭州展示会と浙江省の自転車産業について

去る10月10日(金)から12日(日)にかけて浙江省杭州市で「第29回中国浙江国際自転車電動車展覧会」が開催され、参観する機会を得たので報告する。併せて浙江省の自転車産業のこれまでの発展経緯について簡単に振り返ってみたい。

1. 展示会概況

展示会名: 第29回中国浙江国際自転車電動車展覧会
会 期: 2008年10月10日(金)～12日(日)
場 所: 杭州和平国際会展中心
主 催: 浙江省自転車産業協会
浙江省自転車電動車商会
浙江省経済貿易委員会軽工紡績産業管理弁公室
会場面積: 1万8千平方メートル
出展企業数: 約150社(前年比6.3%減)
参観者数: 8万人(主催者発表人数)



杭州和平国際会議展覧中心

<国家標準適合型が主流>

今回で29回目となる中国浙江国際自転車電動車展覧会は「エネルギーを節約し、環境をより美しく、生命をより健康にする」をテーマに10月10日から三日間開催された。エネルギーの節約は昨年にはなかったものである。開会式には中国自転車協会王理事長や江蘇省自転車協会陸理事長をはじめとする数人の華東、華北地域の業界幹部が出席した。

今年の展示面積は昨年と同程度で、また、構成もこの展示会の特徴である展示エリ

アの他に販売エリアが例年どおり設定され変更はなかった。主催者によると3日間で1千台余り売れたとのこと。

展示製品の殆どは例年どおり電動車及びバッテリーなどの電動車関連部品中心だった。電動車は昨年は主に国家標準超過のいわゆる「豪華型」スクータータイプと標準適合の「簡易型」自転車タイプだったが、今年は標準に適合したスクータータイプが展示の主流となっており、数年前まで全盛を誇っていた標準超過の「豪華型」スクーターはほんの少数となっていた。その理由は、走行規制のない郊外や農村では依然需要はあるものの、販売価格が高いたけでなく、大都市での走行規制やバッテリーの消耗が早く維持費がかかりすぎて消費者から敬遠される傾向にあること、さらにメーカーも発表間近といわれている新国家標準を意識したのだと言われている。



今年の主流の国家標準適合型



簡易型

< 電動車市場に減速感 >

展示会の全体的な印象は、参観者(殆どは国内の小売商)が昨年ほど集まらず熱気が薄れていた。さらにある電動自転車メーカーの関係者は「今年は生産統計の数値はほぼ前年並みを示し一見順調に見えるが、それは市場の実態を正確に表していない。市場は既に飽和状態に達し、流通在庫が増加しつつあり、値崩れが起き小売価格が1台 1,000 元というものさえ出てきている」と嘆いていた。浙江省自行車産業協会による省内上位 18 社の今年 1-6 月の生産台数は前年同期比 0.68%減少、金額は 39.49%増加し、概ね順調と発表している。しかし実際、この展示会の販売エリアでは 1,000 元という商品は見当たらなかったが、1 台 1,600 元の商品に対し 100 元分の携帯電話カード、228 元分の定期検査の割引、盗難防止装置の無料装着という昨年は見られなかった破格の特典が付けられており、これらは販売不振と全く無関係ではないと思われる。しかも、中国電動車メーカーに交ざって昨年出展していた台湾系の異業種参入メーカーが姿を消すなどの減速を感じさせる変化が現れていた。



販売エリア



展示エリア

2000 年以降一貫して拡大を続けてきた中国の電動車市場はどうやら今年あたりでピークを打ち、減速感が漂い始めた模様である。そのことをこの展示会は生産統計よりも先に教えてくれたのかも知れない。

2. 浙江省の自転車産業

浙江省の自転車産業といえば現在、力霸皇、皇冠王、佳麗奇、嘉隆などのメーカーが有名であるが、以下のような経緯を辿り現在に至っている。中国自転車産業の歩みそのものとは言えないが、軌を一にする部分が多いので改めて記す。

- ①改革開放以前は、中国全体で自転車メーカーは 10 社足らず、総生産台数は 100 万台以下、浙江省には 1 社があるだけで、1977 年時点の生産台数はわずか 5 万台だった。自転車はミシンや腕時計と並ぶ庶民にとっては高価な「三種の神器」の一つであった。
- ②改革開放後の 1978 年から 1988 年までは、杭州、嘉興、招興などの農機具メーカーが完成車メーカーに転換し、同時に部品メーカーも設立されると 1988 年には総生産台数が 230 万台、十年前の 46 倍となった。
- ③1988 年から 1998 年までは、民営、合資などの自転車及び部品メーカーが続々と設立され、国営の自転車及び部品企業が相次いで大規模な制度、機構改革を行った。「力霸皇」、「皇冠王」、「万輪」、「小星星」などの民営企業が設立され自転車メーカーは 200 社近くに達した。1998 年には総生産台数が 665 万に達し、一躍全国で二番目になった。自転車及び部品の輸出が大幅に増加し、この 10 年間の自転車総輸出は 1,000 万台近くに達し、その前の 10 年間の輸出総量の 200 倍になった。
- ④1998 年から 2008 年までは、浙江省自転車産業の拡張、規模拡大、技術革新、設備更新が急速に行われ輸出が増加した時期だった。とりわけ 2000 年以降、電動(自転車)車の生産販売台数が 2000 年の 10 万台足らずから 2007 年は 443 万台に急速に発展を遂げ、電動車が浙江省自転車産業の新しい花形生産品になった。関連部品では長興市の電動車バッテリー、台州市の電動車用プラスチック部品、慈溪市の

リヤディレーラ、ハブ、蘭溪市のギヤクランク、梅城鎮のスポーク、寧波市のペダルなどがその地域で有名になった。2007年は自転車及び電動車の生産台数が2,148万台に達し、輸出は1,591万台だった。この十年間を見ると、浙江省自転車産業は自転車輸出で全国二位を保ち、自転車、電動車生産台数が全国で第三位という地位にある。

2007年中国地域別自転車・電動生産台数

(単位:万台)

地域	総生産台数	自転車	電動車
天津	4703.5	4053.7	649.9
河北	25.3	20.2	5.1
上海	978.8	817.2	160.8
江蘇	1333.2	829.1	504.1
浙江	2148.9	1705.5	443.4
山東	309.7	51.1	258.6
広東	1418.9	1347.7	71.2
その他	131.5	58.7	72.8
合計(1)	11049.0	8883.1	2165.9
合計(2)	10851.3	8713.1	2138.2

(出所:中国各地の自転車協会提供数値を中国自転車協会が集計)

(合計(2)は、地域をまたがって加工された場合、重複している場合があるため中国自転車協会が調整して算出した数値である。)

以上



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。